



ippo(いっぽ)

【研究主題】 児童生徒が「経験から考え、行動する力」を高める授業づくり
～「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点を通して～

今号から3号連続で、12月7日の公開研究会の各学部分科会で話題になったことを紹介します。今回は小学部分科会を紹介します。

小学部分科会より
協議題『児童が授業の中で学んだことやできるようになったことを実感し、それを次の授業に生かせるような手立ての工夫』

<ワークショップ>

★授業について★

- ・子どもたちがこれまでの繰り返しで見通しをもち、自分から動いていた。
- ・言葉の意味を丁寧に確認したり、子どもたちの思考を促したりする言葉掛けがされていた。
- ・学習の積み重ねが見える整理された教室環境、子どもたちが活用できる板書が良かった。



★協議題について★

- ・全体目標と個々の目標にズレがあるように感じた。子どもたちが自分の成長や学びを実感できるような具体的なめあてになるとよい。
- ・振り返りを次時の導入でもう一度行い、そこから目標を決めることができるとよい。
- ・子どもたちからの言葉が子どもたちの心に響くものである。教師がそれを拾い上げて子どもに伝えたり、子ども同士のやりとりをもっと活発にさせたりしたい。
- ・自分たちの目標がお客様の「喜ぶ姿」につながっていることが分かるような振り返りができるとよい。

<指導助言> 秋田県総合教育センター 牧野 幸枝 指導主事より

- ・子どもたちの相手意識が育っていることを感じた。以前は与えられた役割の遂行に精一杯だったが、今回はそこが分かっている分、相手に意識が向いていた。
- ・今後先生がいない状況をつくり、必要感をもたせれば、「自分たちだけでなんとかしなくては」という思いが生まれるのではないか。
- ・Cの活動量について。品出しの回数を増やしたり、使う物を別の場所に取りに行ったりすることで増やせるのではないか。他の子どもたちが自然に関わる場面をつくることにもつながる。
- ・繰り返しの力を感じた授業であった。お客様が子どもだったために予期せぬ活動の流れになったが、子どもたちが活動に自信をもっていたためにしっかりと対応できていた。
- ・カフェという題材は、相手に喜んでもらう、相手のために何をするか、ということ学ぶという意味がとても大きい。めあてと評価の整合性を考える際に「なぜカートを両手で押すとお客様が喜ぶのか」といった「なぜ？」の部分丁寧に扱って結びつけてやるのが大切である。「自分の役割を果たせた」という評価と「お客様が喜んでくれた」という評価の結びつけをもっとできれば良かった。



公開研究会等の紹介④



公開研究会等に参加された先生方から各校の取り組みを紹介していただきます。全体目標と個人目標の関連や、子どもたちが目標を意識しながら活動に取り組むための手立ては本校の公開研究会でも話題になったところです。

比内支援学校たかのす校 公開研究会

中学部 下村 靖子



研究主題【自分の力を発揮する姿を育てる授業づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて～】

3学部とも、地域の中での学習を展開しており、本研究会の公開授業も関連した内容であった。また、「絆プロジェクト」と題し、社会に開かれた教育課程の編成、また、各学部段階に応じた「自分の力を発揮する」ための授業づくりに取り組んでいた。授業づくりにおいて「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善を、ツールやシステムを活用して職員が一丸となって行っており、参考になった。

○特定授業

中学部1年生の生活単元学習で、地域の小・中特別支援学級交流会参加に向けたプレゼント（布のしおり）作りの授業を参観した。刺繍、ミシン、ラッピングを分担し、友達を意識できるよう次の工程担当に渡す、MVPの生徒と必ずハイタッチするなど工夫されていた。また、何度も繰り返していることで、生徒たちは自分の役割を分かり、一人で活動を進めることができていた。

○分科会

ワークショップでは、学習グループ全体の「めあて」と本時の個人目標との整合性、ポイントをしぼった分かりやすい目標提示、視覚的に分かりやすい出来高の提示や頑張り発表の仕方などが話題になった。目標をいかに意識できるかで、達成感や次時への意欲につながる、相手を意識することは普段から心掛けて見直していくことが大切という助言があった。